



高専教育シンポジウム

～進化する高専教育～

日時 平成 31 年 1 月 28 日(月) 9:30～16:30
場所 学術総合センター 一橋講堂・中会議場
主催 独立行政法人国立高等専門学校機構

9 : 30－9 : 35 開会式

一橋講堂

主催者挨拶

文部科学省挨拶

9 : 35－10 : 05 講演 1 「高専教育の未来」



谷口 功 国立高等専門学校機構理事長

Society5.0 に代表される産業構造変化、地域社会の在り方、急激なグローバル化社会など、ありとあらゆる場所で様々な答えのない課題があり、それを解決する人財が求められている。これからの高専は、社会変革に積極的にチャレンジし、科学技術の成果を社会実装することで、人や社会にイノベーションをもたらすソーシャルドクター（社会のお医者さん）を育成していきます。そのために、モデルコアカリキュラムをはじめとする様々な先進的な教育を実践し、高専教育が我が国の教育改革を先導します。

10 : 05－10 : 20 講演 2 「社会の変化と高専教育の役割」



豊岡 宏規 国立高等専門学校機構理事

高専教育は、社会の変化に応じて進化していきます。我が国の高度経済成長期に高専制度が創設されてから 50 年以上が経過しました。「高専とはそもそもどういう学校なのか？」から出発して、国立高専がこの間、果たしてきた役割、そして新たな時代に担うことが求められる役割についてお話します。チャレンジを続ける高専教育について知っていただければ幸いです。

10 : 20－10 : 30 学生プレゼンテーション「七転び八起き ～私の高専生活と高専プロコン」

坂口 孝志 豊田工業高等専門学校 情報工学科 3年

全国高等専門学校第 29 回プログラミングコンテスト課題部門にて、特別賞受賞。地域の課題を ICT により解決するため、町内会向けアプリを開発し、社会実装した学生が、高専での学びについてプレゼンテーションを行います。

10 : 30－10 : 45 休憩

10:45-11:00 講演3 「保証された学生の『チカラ』」



但野 茂 国立高等専門学校機構理事・函館工業高等専門学校長

国立高専は、モデルコアカリキュラム（MCC）の導入により、最低限の教育の質保証を行っております。これは「教員が何を教えたか」から「学生は何を学んだか」と大きな教育の変革であり、社会に輩出する高専生の「チカラ」をどのように保証するかの到達基準です。その到達基準に合致したCBT（試験）やルーブリックやコンピテンシー評価により、総合的に保証する仕組みについてお話しします。

11:00-11:15 講演4 「世界で活躍できる『チカラ』」



東田 賢二 国立高等専門学校機構理事・佐世保工業高等専門学校長

産業のボーダレス化により地域企業が海外に進出、グローバルな舞台で活躍するエンジニアの育成が求められています。国立高専が育成する実践的創造的技術者が世界から注目を浴びる中、国立高専自体の国際化が喫緊の課題です。高専教育の国際化と海外展開の一体的な推進により、世界の課題を解決する学生の「チカラ」を保証します。

11:15-11:30 講演5 「地域のニーズを、地域の『チカラ』へ」



安藤 真 国立高等専門学校機構理事

豊かな社会を実現するため、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた努力が国内外の様々な場面で行われています。全国に点在する国立高専は、その組織力を最大限に活かし、地域と協働して地域の課題解決を行う取組や、新技術開発（イノベーション）による新産業の創出等を通じて、豊かな社会の実現に貢献する地域の「チカラ」を育成しています。

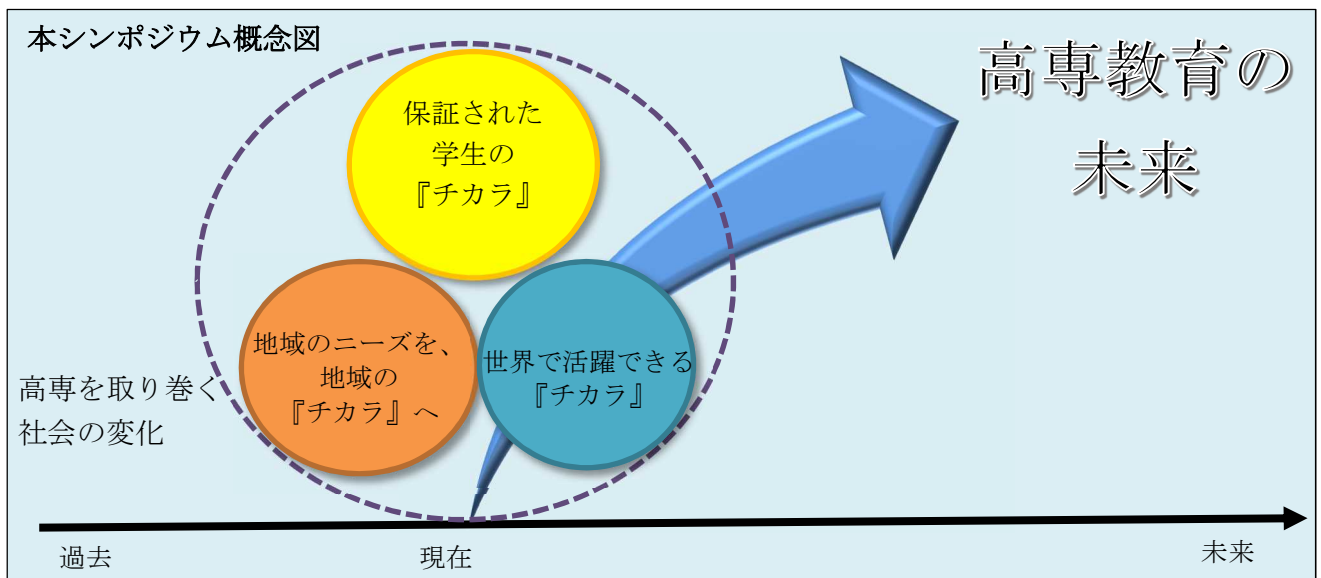
11:30-11:40 学生プレゼンテーション「高専で学んだグローバル・グローバル」

大室 ひな 呉工業高等専門学校 専攻科1年

ESD日本ユースカンファレンスに日本代表として参加。住み続けられる街づくりのために、国際的な感覚を持ってローカルな課題を解決する方法を研究している学生が、高専での学びについてプレゼンテーションします。

11:40-12:00 質疑応答・閉会式

12:00-13:00 休憩





高専教育シンポジウム

<分科会>

13:00-13:05 分科会 開会式

中会議室

13:05-13:25 長岡高専「地域を学び舎とする分野横断型イノベーション人材の育成」

長岡高専では、地域を学び舎とした分野横断型のイノベーション教育を推進しています。地域協働教育プログラム JSCOOP や、低学年からの研究活動の場を提供するプレラボ制度等をベースに、次世代のグローバル人材、起業家人材の育成を狙うプログラムを展開してきました。本講演では、その経緯を振り返るとともに、教育活動の現況や、教員の学び合い、支え合いといった協働体制構築への波及効果を説明します。

13:25-13:45 「企業との共同教育とその評価」

国立高専は、企業と連携して学生の「チカラ」をどのように伸ばしていけるのか、そのための共同教育を行っています。最新のテクノロジーを使う機会、エンジニアとの対話、高専外のメンバーとの協働などの仕掛けを入れて、モチベーションを上げ、知識と実践力を増やし、かつ、社会人基礎力と言われるジェネリックスキルの育成とそれらの評価を行っています。そのいくつかの事例を紹介します。

13:45-14:25 仙台高専「先導的教育改革（文科省事業採択6高専）の成果と他高専への展開」

文科省事業 AP(大学教育再生加速プログラム)に国立高専からは6高専(仙台、明石、岐阜、阿南、徳山、宇部)が採択されています。各校において、高専教育の改善のために先進的な取り組みがなされ、成果が出ており、それらを全ての国立高専へ共有する段階となりました。ここでは、各校に導入しやすい形で整理したものを共有し、これから展開につながる場にしたいと考えています。

14:25-14:35 質疑応答

14:35-14:50 休憩

14:50-15:10 函館高専「CBT 結果を学生の学び・科目担当の教育改善に繋げる取り組み」

国立高専では、CBT(コンピュータを使用した学習到達度試験)により、学生の学習の到達度を測っています。函館高専では、その結果を分析し、学習の定着度が低い学生への対策や、授業を担当する教員のFDを行い、モデルコアカリキュラムの到達目標を達成するため、学校組織としての教育改善を進めています。ここでは、その取り組みを具体的に紹介します。

15 : 10－15 : 30 阿南高専「協同性を高める学内教員研修モデル」

原級留置・退学、発達障がいやコミュニケーション能力不足など、支援を必要とする学生は多くいます。学生をよりよく育むには教員個々の力の伸長だけでなく、教員間の協同性の向上が必須です。それは、講演・ワークショップの開催、学外研修参加だけではなしえません。協同性を高める教員研修を志向するモデルとして阿南高専を含む全ての国立高専の学内教員研修を提示し、その課題と方向性を共有します。

15 : 30－15 : 50 「カリキュラムマネジメントのすすめ」

モデルコアカリキュラム(MCC)が全ての国立高専に完全導入され、内部質保証としての MCC が本格的に動き始めました。今後、MCC の効果を高め、かつ各国立高専の特色を伸長させるためにはカリキュラムマネジメントが欠かせません。そこで、高専教育でのカリキュラムマネジメントの位置付けやどのようなマネジメントが必要となってくるのか等について共有します。

15 : 50－16 : 10 「これからの学生情報可視化の取組み」

これからの時代は、様々なデータが蓄積され、それらを分析し、その分析結果を適切に人が判断して活用する社会になることが予想されます。教育現場においても、学習歴を蓄積し、それを学びに活用する e ポートフォリオやディプロマサプリメントなどの動きがあります。国立高専では、学生情報を KOREDA (Kosen Resource DAtabase) に蓄積・可視化により、教育の質保証へ繋げるチカラの仕組みを示します。

16 : 10－16 : 25 質疑応答

16 : 25－16 : 30 閉会式

独立行政法人
国立高等専門学校機構

〒193-0834
東京都八王子市東浅川町701-2
電話 : 042-662-3226
FAX : 042-662-3175
kyoiku@kosen-k.go.jp